行当岬のタービダイト堆積物

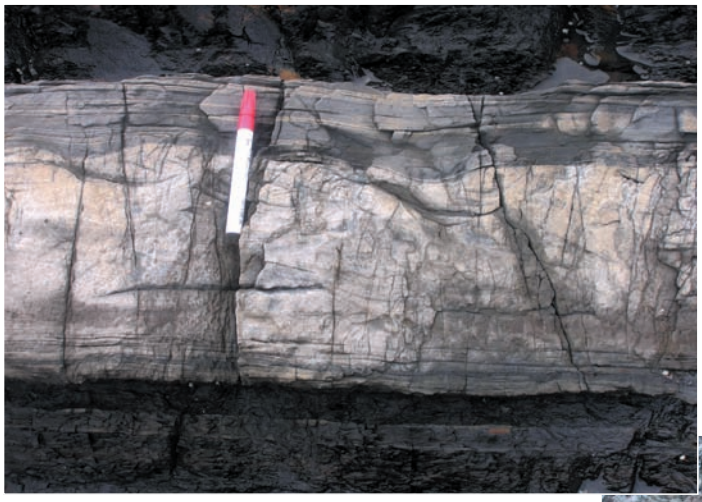
＜有田　正史・須藤　定久＞

高知市から国道55号線を室戸岬に向かう．もう一息で室戸市街というところに道の駅「キラメッセ室戸」があり，その先に行当岬がある．この一帯には，タービディティー・カレントによって形成された見事な砂岩・頁岩互層（タービダイト）が分布しており，随所にその露出を見ることができる．その一部を紹介してみよう．（本文49-56ページ参照）

1. キラメッセ室戸前の海岸に露出する砂岩・頁岩互層
レストラン前の海岸には見事な砂岩・頁岩互層が見られる．白く見える砂岩の厚さは5cmから30cm程度である．

2. 行当岬の砂岩・頁岩互層
整然とした地層が露出する部分．各層の厚さはばらつくが，砂岩と頁岩の比率はほぼ1：1である．

3. 行当岬の砂岩・頁岩互層
砂岩には見事な堆積構造が見える．一方頁岩層は名の通り本のページのように薄く剥がれる．



4. 行当岬の砂岩

砂岩の拡大写真．下部から，平行葉理の発達した下部（Tb：タービダイト相のb相，以下同様），うねったコンボリュートラミナのある中部（Tc），平行葉理のある上部（Td），そして上位の頁岩(Te)という一連の堆積構造が観察される．

5. 舌状漣痕の例

至るところにさまざまな漣痕が観察される．風化によりやや見にくくなっているが見事な舌状漣痕である．ちなみに当時の流向は，左上から右下方向へ流れていたようだ．

6. 海底地滑りの堆積物

海食台の一画には，海底地滑りの堆積物が見られる．整然とした砂岩・頁岩互層とは実に対照的な姿である．

7. 砂岩脈の例

右に緩く傾斜した頁岩を斜めに切る砂岩．地震の影響で形成されたもので「地震の化石」という説もある．砂岩脈にあけられた3つの穴は，某大学の研究者が研究用試料を採りだした跡である．